まちづくりニュース 阿見吉原の里

保存版 風土記 特大号

“まちニュー”の人気コーナー
『阿見吉原の里 風土記』を特別編集！“故(ふる)きを温(たず)ね新しきを知る”
Ami(あみ)☆Yoshi(よし) “まちづくり” のルーツここにあり！

阿見吉原の里 風土記 1 Archive

まちづくりニュース Vol.9
平成19年12月10日発行

『圏央道・アクセス道路の開通』、『商業・業務施設用地の整備』などと目まぐるしく変わっていく阿見吉原地区・・・私たちは、その変貌(へんぼう)の目撃者でもあります。

この吉原の地は、前号でお伝えした遺跡の出土でもわかる様に、古から多くの人々が住(じゅう)し、生活を営(いとな)んだ土地でありました。

それが今、現代に新たなかたちでよみがえろうとしています。

この変わりゆく吉原の歴史・風土・名所・名産等を21世紀の吉原を担っていく皆さんにお伝えするのがこの風土記シリーズです。

第1回は、今から60年前：昭和22年（1947年）に米軍により撮影された**『吉原最古の空中写真』**です。現在の写真と比べてみてください。その変化の程が伺えます。

米軍撮影の空中写真（昭和22年10月撮影）

本誌は“まちニューVOL.9～VOL.17”に掲載された『阿見吉原の里風土記』を再編集したものです。

まちづくりニュース Vol.13
平成21年3月31日発行

『土岐桔梗紋』

■武士の里吉原～江戸崎土岐が夢の跡～

室町期、吉原を含めた信太庄は江戸崎に拠をおく土岐(原)氏が治めていました。江戸崎家は美濃土岐宗家の分流でしたが、戦国期に宗家が斎藤道三に滅ぼされた事により江戸崎家が宗家を継ぐ事となります。

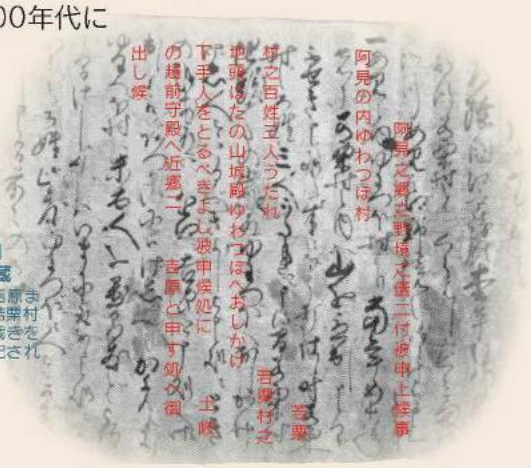
信太庄にも戦国の世は訪れます。土岐以前の領主『筑波の小田氏』が1500年代に侵攻し、以後40年に渡る戦闘が繰り広げられます。

小田家臣の中枢には、阿見吉原から興ったと云われる『吉原氏』がおりました。

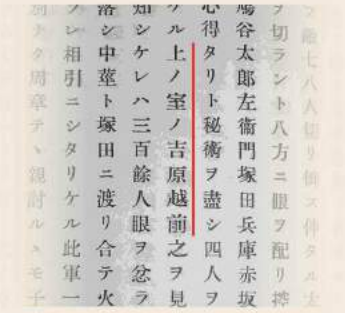
もしかするとこの侵攻は**『一族発祥之地を奪回したい！という吉原氏の聖戦！』**であったのかも知れません！

この戦闘により信太庄は小田方が奪い、土岐一族は一時期流浪の身となりますが、龍ケ崎で再起を図り、再び領地を奪回しています。

以後も両者は一進一退の攻防を続けますが後年、小田原の北条氏旗下として和睦同盟を結び、共に常陸北方からの脅威である佐竹氏の防衛にあたります。



「御めやす文書」
若栗：湯原尹氏蔵
「土岐越前守」が吉原まで出向き、阿見・若栗村の境界争いのお裁きを行ったとの事が記されています。



東国戦記実録に記される小田幕下一の猛将
『吉原越前守』

新発見！『土岐家臣譜』に記される吉原越前
龍ケ崎市師岡英夫氏蔵

地区に隣接して残る『吉原二重堀』
吉原は土岐防衛神の最前線

飯倉の姫塚
土岐のお姫様の悲しい物語は有名です

吉原の鹿島神社
樹齢500年以上の杉大木だけが唯一土岐の御代を知る

吉原は今でも戦国の『名残』を数多く残しています。

北条流軍学により地域一帯を要塞化するための『二重堀』や、久野や木原の出城であったと云う『伝説の篠崎館』、最後の領主：大膳大夫治英が修繕したとの伝承が残る『鹿島神社』、また『堀尻』『馬乗馬場』『馬立』などに見られる猛き地名の数々

そして今回、新発見資料：土岐家臣譜に記される「吉原村に住ス『吉原越前』の存在」！

この人物が吉原でお裁きをした『土岐越前守』か？
はたまた同盟の小田進駐家臣『吉原越前守』であるか？…
謎が謎呼ぶ浪漫溢れる『吉原版戦国絵巻』。
詳細は、また近日『説明会』などでご紹介します。

天正18年（1590年）佐竹・芦名氏の侵攻により江戸崎城は陥落、土岐氏は滅亡します。信太庄は佐竹氏族：芦名領となりますが12年後、関ヶ原不参加であった佐竹氏の秋田移封に伴い、此の地を去っていきます。

吉原から武士は消え、戦国の夢跡だけが残る…

～忘れ路のとき夢まどう里の春
…よみ人しらず～

雪の『吉原二重堀』

阿見吉原の里
風土記 5
Archive

まちづくりニュース Vol.14
平成21年7月24日発行

"古文零聚"に記される「吉原」

■阿見吉原地名考

アウトレットのオープンで知名度が一気にアップした『阿見町』そして『吉原』・・・
今回は、一躍有名になった地名！私達の『吉原』について考えて行きましょう。

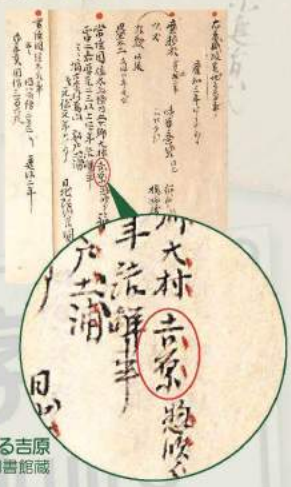
①なぜ吉原という地名になったのか？

吉原という名前の由来は・・・実は不明です。但し、地名はその地形や風景から付けられる事が多く、湿地帯の多い吉原は、**当初『葦原』と呼ばれていた！**と思われます。しかし『葦』は『悪し』に通じるため、古代人は好字を用い『吉原』と呼び変えたと考えます。また『吉原』の地名は西国に多い事から、**『西国移住人による命名！』**とする説もあります。因みに『吉原』という地名は全国で127カ所もあります(@_@;)

古の吉原はこんな感じの「葦の原」？

②いつから吉原と呼ばれたのか？

吉原と呼ばれる様になった時期も・・・？です。でも、かなり古い時代から呼ばれていた様ですね。吉原の名が確認できる最古のものは**『東寺古文零聚』**という鎌倉期の文献であり、東寺領であった『吉原の年貢分を幕府に請求している』というものです。この文献には、近隣の『荒川』『塙』『福田』等の地名も載っています(^_-)


東寺古文零聚：元徳元年（1329年）にみえる吉原
福井県小浜市立図書館蔵

③『よしわら』か『よしはら』か？

『よしわら』と記される吉原十字路や久野道祖神：嘉永4年8月（1850年）

この問題は奥が深いですね～。字の意味からすると『よし**は**ら』ですが、発音は『よし**わ**ら』。

現在は『よしわら』が一般的に使われている様です。しかし明治期に出版された『新編常陸国誌』（当時の茨城県史のようなもの）では**輿志波良**と記されています。

『よし**わ**ら』か？『よし**は**ら』とかいて発音は『Yoshiwara』なのか？他の吉原でも議論が交わされているみたいですよ(*^^)v

「新編常陸国誌」では「よしはら」と紹介

④『よし』の字は『吉』か『吉』か？

これも深～い問題ですね。ランク的にも全国区です。現在の常用漢字字典では『吉』が正解とされ『吉』は俗字であると書かれています。OA化が進んだ現代、PCでも『吉』字しか変換されません。しかし、古い時代の資料ではほとんどが『吉原』と記されています。**本来は『吉原』！**なのでしょうね(T_T)

世の合理化により消えつつある『吉原』をみなさん！忘れないで下さいね。

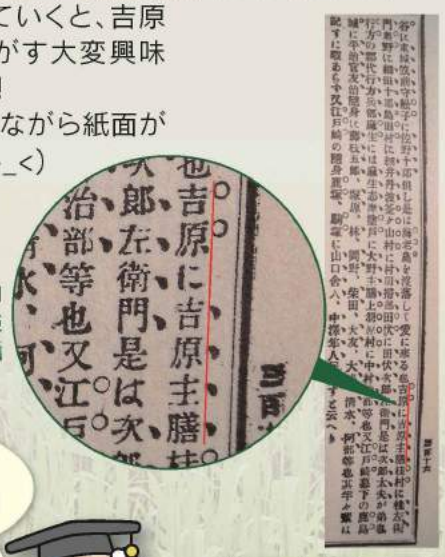
街に溢れる「吉原」

稀にある「吉原」

⑤吉原に『吉原さん』がいない？その理由は・・・

現在、吉原地区に『吉原さん』は居りません。しかし前号でも紹介したとおり、戦国期には**『吉原』を名乗る一族が吉原に存在**していたのです！

調査を進めていくと、吉原の歴史を揺るがす大変興味深い事実が・・・！
詳細は・・・残念ながら紙面が足りないっ(>_<)
またの機会をお楽しみにっ！


「東国闘戦見聞私記」に記される土岐家臣：吉原主膳

阿見吉原の里
風土記 6 Archive

まちづくりニュース Vol.15
平成21年12月22日発行

「西光寺薬師如来坐像」をモチーフにした
キャラクター"ヤクシィ～"

■阿見吉原地名考～其ノ弐～ 東地区小字編

前回、地域のみなさんに好評をいただいた『吉原地名考』。今回は第2弾『東地区の小字名』を考えてみます。
現在、小字は『土地登記簿』などでしか確認出来ません。住所にも使われる事がなく、馴染み薄い存在ですが『登記制度』確立前の江戸期には、既に存在した地名であり、地域の歴史を辿る上では大変貴重なものです。

▶米軍撮影の空中写真(昭和22年10月撮影)

●正上内

超難読地名『しょうじょうじ』と読むそうです。お寺みたいですね。常陸國府のあった**石岡市にも同地名があります。**参考にその由来を…

1『庄(正)内の上等地』つまり**『領内屈指の豊饒地』**という説。成程、近年の遺跡調査でも沢山の住居跡が確認されました。確かに水辺に面す南斜面の高台…まさに一等地!

2『常陸國の警察権者:小掾の管理地』つまり**『小掾内』の転化**という説。そうだとすると中世、吉原には巨大な力を持った『一族』がいた!と言う事に…!

う～ん浪漫が広がりますね～! ＼(^O^)／

石岡市にある「正上内」

●中山台

隣接する牛久市桂町**報徳地区では大半の方が『中山さん!』**地域の方にお聞きしても由来は?だそうです。でもやっぱり『中山さん』に関係ありそうな地名ですね(^^)

「中山宅前」バス停

●薬師山、薬師入

中世の薬師堂伝説に因んだ『薬師山』、神聖な『お山』を谷津(堀)が囲み、結界を成す感の『薬師入』。**西光寺:薬師如来坐像もかつて此の地に在った!**と云い、近年の遺跡調査では、それを証する平安期の古銭なども出土しています。

鎌倉期、吉原が京『東寺』領だった!ことと、此処に『薬師堂』があったこと!…記録は在りませんが、関連性を感じずにはおれません!ヾ(℃°)々

「西光寺薬師如来坐像(平安期作)」
※県指定文化財

京都東寺本尊
「薬師如来坐像」

●新山、新道、新道台

新山は小野川・清明川水系の分水嶺!戦国期:江戸崎土岐氏は、この**馬ノ背台地に『二重堀』を築き、敵軍:佐竹氏の防衛拠点**とします。

『戦だぁ～!』この時期、江戸崎から新山陣までの『軍事道路』(現:県道土浦稲敷線)が整備されたと考えます。

…それが『新道』『新道台』の由来では…?それなら『新山』は…?

土岐家臣に江戸崎新山六人衆という男達がいます。その中には**如何にも吉原に縁深そうな面々が…。**

この男達が此処で佐竹軍と大戦を!…という事が考えられないでしょうか!?それ故に『新山』…この説、如何ですかね!?(^○^)

「土岐氏旧臣人数注文」に記される
江戸崎新山六人衆
山中由来、篠崎出雲、
吉原勘右衛門等
飯倉:石引家文書

新しく交差点名になった「新山」

●篠崎、内林、北原

『篠崎』の由来はその地形に有り。**谷津に向かい張り出した篠山集落…故に『篠崎』!**

ご存知、篠崎さんの本拠地!此処は歴史も古く遺跡や伝説の宝庫。土岐の出城:幻の『篠崎館』も**新山六人衆:篠崎出雲**などの存在により益々信憑性が高まってきました!あとは遺跡調査で何が分かるか?…楽しみですね!

今は無き「篠崎山(台山)」

『内林』の由来も篠崎館を中心に捉え、**谷津(堀)の内なる林を指す**ものでは…!?『堀ノ内』『丸ノ内』林という意味です。

『北原』も**『館北方の原っぱ』**であれば位置的にも整合しますね…こんな説も面白いでしょ(*^_^*)

その他にも、土地改良での新地名**『昭和』**、消失した**『沖田』**や**『台ノ下』**なども面白いエピソードが満載!でも…残念紙面が足りない!(T.T)また次の機会に!

阿見吉原の里
風土記 7 Archive

まちづくりニュース Vol.16
平成22年3月31日発行

まるで舟を漕いでいるかの様な
"海夫注文"の『吉原』

■霞ヶ浦を取り巻く二つの『吉原』～謎の一族『吉原氏』を追う！～

『篠崎遺跡調査報告』などにより、古の『吉原』は低地部付近まで『香取海』『信太流海』などと呼ばれた『霞ヶ浦』が大きく入り込み、水辺に面した台地部に『巨大集落が形成されていた！』事がわかってきました。

出土物などによっても、その『吉原の民』は海上交通を通じ『南関東と大いに文化・経済交流を持っていた！』という驚きの事実も確認されています！

『香取神宮』と海からの参道『津宮鳥居河岸』

古代より霞ヶ浦に面し『海の民』を統括していた『香取神宮』に**『海夫注文』**という古文書が存在します。

そこには**『ふつとの津　志だ　一方小田知行分　一方吉原知行分』**とあり、『吉原』に拠を置く『吉原氏』が海上交通の要衝『古渡の津』を、前常陸守護『小田氏』と共に統治していた事が記されています。

香取大禰宜家文書『海夫注文』：
応安7年（1374年）にみえる吉原氏

『古渡』は近代まで小野川水系の玄関口として栄えた港であり、此処を治めた**『吉原氏』とは『強大な力を持った海の大豪族！』**だと想像できますが、その正体たるや一切が謎に包まれたまま・・・**香取文書に現る『吉原氏』とは一体何者であったのでしょうか・・・？**

調査に行き詰まった我々でしたが・・・神様はいるものですね(^_^)
ある筋から大変興味深い情報をいただきました・・・！

新編常陸國誌にも記される信太庄地頭小田氏と吉原氏

當寺領山城國云云上ニ高屋餘田等知行不可有相違之旨可令下知供僧學衆給之旨天氣所候也云云ト見ユ此庄ノ地頭ハ小田吉原兩氏ノ人ト見エレド大概ハ小田氏ノ職ナリシト見エタリ應安ノ海夫注文ニふつとのつ一方小田知行分一方吉原知行分あんもうのつ小田知行分ト見エタリ古渡安中共ニ信太庄ノ内ナリ此注文ニ其知行トカケルハ皆地頭

『香取神宮』の隣にも『吉原』という地域があります！

ここでも近年大規模な『発掘調査』が実施され、巨大集落跡や歴史を揺るがす出土物が数多く確認されました！

特に凄いのは、『吉原仲家』『吉原大畠』などと記された平安期の墨書土器の数々、ここに住した一族の文化水準の高さが伺えますね。

現在の『古渡の津』（稲敷市）
兵どもが『夢の跡』

『古渡の津』の古地図
海上交通の要衝！

香取市『吉原三王遺跡』
（昭和55年：東関道調査）

出土した墨書土器の数々

『（香取）吉原』と『古渡の津』を治めた『吉原氏』、そして、本拠**『（信太）吉原』**・・・

古代の『霞ヶ浦』周辺！

この二郷の関連性は残念ながら現時点では確認出来ていませんが、霞ヶ浦を通じ交流があったと考えるのは極々自然な事！もしかすると**一部『吉原の民』は『まほろばの地』を求め、常世の國『信太』に移住、此の地を『吉原』と名付けた！？**のかも知れませんよ！ >^_^<

現在の『（香取）吉原』も私達の『（信太）吉原』同様、高速道路ICを擁す地域です。時が移り『主要交通』は海路から陸路に変わったとはいえ『文化』『経済』などの流れはさほど変わらず・・・

現在の『香取吉原』地区。

阿見吉原の里
風土記 8 Archive

昔も今も、この二郷は『要衝の地』！
圏央道が東関道に接続する平成24年
・・・運命は二つの『吉原』を
再び結ぶ事となります！

至徳3年（1386年）、『古渡の津』の統治者『吉原氏』は幕命による『小田氏』の信太庄没収に連座し、此の地を去っていきます。

一つの時代はここで終焉を迎えますが、一部の『吉原氏』は、後の統治者『土岐氏』家臣として、此の地に根を張り、やがて時代は・・・戦国の世へ！

そして始まる『小田』と『土岐』！新たな二つの『吉原』物語・・・

このお話は・・・今回も盛り沢山過ぎたので・・・(^_^; また次の機会！お楽しみにっ！

飯倉石引家文書に記される
土岐家臣：柏木村 吉原久左衛門

まちづくりニュース Vol.17
平成22年9月30日発行

吉原鷹の羽紋

A M I　Y O S H I W A R A

■謎の大豪族『吉原氏』のその後・・・
～小田家臣『吉原越前』とその末裔たち～

吉原山遠景

吉原城址と伝わる延命山西光寺一乗院

つくば市上ノ室（旧桜村）に『吉原山』と呼ばれる丘陵集落があります。そこにあるお寺は、かつての『小田家臣：吉原越前（以下：越前）』の城址であったと云い、前号でも紹介した**『筑波移住組：吉原氏』の拠点**であったと考えられます。

境内には家臣団末裔が建立した供養碑もあり、此の地を治めた『吉原氏』が今なお、地域の方々に慕われ続けていることが分かります。

H15に建てられた「吉原越前」の供養碑

『吉原越前』の生きた時代は、まさに戦国期のまっ只中！

当地域の戦国期を記す『東国戦記』などに『越前』の名は小田幕下一の猛将として、しばし登場しますがその一方で、約40年間にも渡る『江戸崎土岐氏』との戦を終結させ、和睦・同盟を成し遂げたのも信太庄を一族発祥の地とする『越前』であったと想像します。

強さと優しさを合わせ持つ『吉原越前』・・・まるで坂本竜馬みたいですね(*^_^*)

天正2年（1574）、『越前』は『水戸：佐竹』『下妻：多賀谷』連合軍との『土浦城の戦』で破れ、倅『備前』を同盟『石毛城』に落ちのびさせ自刃！その波乱の生涯を閉じます。

倅『備前』もまた戦国の壮絶なる洗礼を受けた武将でした。

『石毛氏』の客将として『下妻・多賀谷軍』と勇敢に戦うも破れ↘『城主』助命を条件に敵方の家臣となり↘後には父『越前』が回復した一族発祥の『信太庄』にも侵攻せざるを得ず↘**同族同士が再び相争う・・・何とも悲しい展開です(T_T)**

慶長7年（1602年）、『関ヶ原の戦』後、結果的に反徳川方となった『佐竹・多賀谷一族』が此の地を去ると『備前』一門は武士を捨て活動拠点であった**現在の県西地域に土着します。今も、この周辺地域に『吉原姓』が多いのもその様な理由**からなのでしょうね。

時は流れ明治40年（1907）、石下町（現常総市）に住む24歳の青年が江戸期に記された秘本『東国闘戦見聞私記』を校訂し、世に出しています。

これにより長年"謎"とされてきた当地域の戦国期の様相が広く世間に伝わることとなりました。**発行者の名は吉原格齋・・・**

東国闘戦見聞私記

私記に記される吉原一族の「その後…」

上の室の吉原越前は土浦没落には老衰し倅備前土浦に込たり没落の時切抜て所領に歸りけるに車丹波守三千餘兵にて館を取巻たり倅備前をは石毛に落し其身は自害し君恩を報じたる忠臣也委細は石毛東弘寺と下妻和順の下に見へたり備前が子孫は多賀谷没落の時民家に降れり

ちなみに茨城は「吉原姓」全国第1位であり、県内に900世帯ほどあります

県西地域の街には「吉原」の文字が溢れてる！

彼こそ戦国期を生きた『吉原越前・備前』の末裔なり！

阿見吉原の里
風土記 9 Archive

工事が進む（仮称）水海道IC周辺（常総市）

『阿見』から『つくば』そして『常総』へと拡がりゆく圏央道西ルート・・・それは、古の吉原一族、移住の道でもあるのですね。

まちづくりニュース Vol.12
平成20年12月25日発行

"独眼竜政宗"阿見吉原に来たる!

常陸國絵図　茨城県立歴史館所蔵

■吉原と仙台伊達 ～400年の物語～

江戸の昔、吉原周辺の村々は大半が『仙台伊達藩領』でありました。常陸伊達領は、阿見を中心に一万石の知行地が設けられ、その本陣は龍ケ崎に置かれていたと云います。

しかし、吉原だけは幕府直轄の『天領』。何故なのか?何か理由があったはず…。この小さな疑問は、まちづくりが進むと共にどんどんと膨らんでいくのでした。

そんな折も折…

吉原にP・Oの進出が決まり、それに先駆け、仙台でもP・Oがオープンする!

…何とも不思議な力に導かれるようにして、私達は吉原と仙台伊達との数奇な関わりについて調べる事に…。詳細については近日、地権者会などでお話させて戴くとして、ここではその触りを…

幕府は、大名領を一場所に集約させず、各地に分散させたと云います。伊達政宗を『天下簒奪の野望者』として危険視していた徳川家康は、伊達領の配置には、特に気を回した事でしょう。吉原天領地も、このような背景のもと定められたのではないかと考えます。

吉原には今でも『代官山』という地名が残っています!

もしかして幕府は、龍ケ崎と阿見を結ぶ交通の要衝:吉原の地で『伊達に対し、睨みを効かせていた!』のかも知れませんね?

寛永2年8月(1625年)、齢六十にして政宗は、初めて常陸領見分を行います。江戸から龍ケ崎、そして阿見追原まで足を伸ばし、鷹狩を行ったとの記録も残っています。

400年前に政宗が歩いた道…それは、奇しくも現在の県道竜ヶ崎阿見線BPのほぼ計画ルートになります!

追原への道程の途上、吉原を通過する際、休息し喉の渇きを癒す政宗。

何と良い土地だ。
ここに城下を作ったらどんな街に…

阿見吉原の里
風土記 4
Archive

- 仙台伊達領
- 吉原村
- 幕府直轄領
- 政宗:常陸領見分ルート

都市プランナー政宗は交差する街道筋で、こんな事を想い描いたやも知れませんね(*^_^*)

これはこれは…史実にない夢物語を語ってしまいました。あしからず、あしからず……。

尚々、御音信
千々万々悦候
扨々此方へ之
御音書、文見事之菓子
致拝受候、徒
則たべ候、尊候事候
龍ケ崎より爰元(私)
追原之申所へ
今日移申候
(うつり)
うつら少々有之由
兼々及承候キ、
一切無之候て、無
曲存候、此辺、野ハ
所々河ほども御
坐無候、すくな者
物ハ(うつら)にて候
雲雀ハはや過候
へハ(あくび)
申事二候
恐惶謹言
松平陸奥守
(寛永二年)
八月廿八日　政宗(花押)
金森雲州様　御報

赤字:本文　黄字:追書

『飛騨高山藩主金森出雲守宛　追原鷹狩についての伊達政宗書状』　大阪城天守閣所蔵

この書状は宿泊地である追原蔵福寺で書かれたと云われています。書状には『狩りの名所追原に行ってはみたが獲物のウズラが少なく退屈してあくびが出てしまった』や、『いただいた菓子が余りにも美味で直ぐ食べてしまい恥ずかしい』など、戦国武将でなく『人間:伊達政宗』を感じさせられる微笑ましいエピソードが記されています。まるで現代人のメール ✉ みたいですね(*^^)v

まちづくりニュース Vol.11
平成20年7月25日発行

阿見吉原の里
風土記 3
Archive

国土地理院の地図画像　仏式迅速図
明治十四年六月　陸軍測地部作製

■吉原"道祖神"物語

新山交差点近くの県道沿いに小さな石仏があります。
車どころか歩いていても見過ごしがちの**その石仏は『道祖神』**でした･･･。
『道祖神』は街道の辻々に『道標』として、または村に災厄を入れないための『結界神』として設置されました。
古地図を見るとその場所は、まさに『吉原の本街道筋』とでも言うべき場所！現『吉原十字路』が存在していなかった当時の事を考えると、本来はここがそう呼ばれるべき十字路（吉原十文字）だったのかも知れません！
地図と同じ、明治14年に建てられた**この『道祖神』には『北：若栗、土浦』『西：谷田部』『南：女化、龍ケ崎』『東：成田』と記してあります。**
昔から交通の要衝であった『吉原』には、成田詣に向かう旅人も数多く訪れた事でしょう。
吉原から成田へは、距離にして約八里（約32キロ）。徒歩が中心であった当時の交通手段では、途中利根川を渡る困難さもあり、片道『1～2日』位かかったと考えられます。
圏央道が成田までつながる4年後の平成24年･･･成田は車で『20分』の場所となり、吉原はますます便利で開けた街となっていく事でしょう。
でも、ちょっと待って･･･ほんの少しだけスピードを緩めて周りの景色をゆっくりと眺めてみて下さい。
そこには、ほら･･･悠久の吉原の歴史を語る一証人･･･この『道祖神』の様に、今まで見えなかったものが見えてくるかもしれませんよ(*^_^*)
『道祖神』は今秋、道路工事に合わせて旧道沿いに移転保存していく予定です。

まちづくり 阿見吉原の里
保存版 風土記 特大号
我らが目指すは
『温故知新的』まちづくり

【『阿見吉原の里 風土記』に関するお問い合わせは…】
茨城県竜ケ崎工事事務所　阿見吉原地区整備課
〒301-0007　茨城県龍ケ崎市馴柴町35
TEL:0297-65-1057　FAX:0297-65-1415

発行日／平成22年12月24日　印刷／八幡印刷株式会社
PRINTED WITH SOY INK
環境にやさしい大豆油インキを使用しています